

平成 25 年度ものづくりマイスター事業の実績総括（成果と課題）

1 マイスターの認定状況について

- 平成 25 年度末の全国のマイスター認定数は 3,116 人。年度後半も順調に進捗し、年間目標（1,420 人）を大きく上回る実績。
- 職種別、地域別の乖離も徐々に解消されつつあるが、派遣コース等に応じたバランス確保を確保した認定数の計画的拡大等が本年度の課題。
- 推進会議の議論等を踏まえ、認定基準、開拓・審査・認定の体制を整えた上で、本年 7 月から認定開始。年度後半も、1～2 月毎の認定機会ごとに、新規認定 3～5 百人ペースで安定的に推移。
- この結果、25 年度末のマイスター認定人数は全国 3,116 人と、年間目標（1,420 人）を大きく上回るなど、全体としては所期の目標以上の実績を上げ、事業推進の基盤形成が図られたと言えるもの。
- 職種別で見ると、①機械加工（415 人）、②建築大工（301 人）、③造園（235 人）といった、実技指導派遣コースが見込まれ、技能士数等の母数も大きい、いわゆる基幹職種が多数。他方、元々技能士数の少ない職種では、認定数が〇、ごく少数に止まるものも散見。
- 地域別に見ると、上位は①東京（158 人）、②石川（132 人）、③徳島（125 人）④鹿児島（117 人）、⑤福岡（104 人）と、必ずしもものづくり技能者の集積等に合致しない実態。年末までに、特定の県で認定が〇、一桁といった極端な実態は解消されたが、なお都道府県間の格差あり。
- こうした職種別、地域別の認定状況、また下記 2 に示す実技指導等の派遣コースを踏まえたバランス確保に十分配慮の上、マイスターの要件を満たす有為の人材の計画的な開拓、認定を進める必要。

2 マスターによる実技指導等の実施状況について

- マスターの実技指導等は、認定の蓄積を踏まえ、さらに派遣ニーズの把握、マッチング等を通じ実現するため、タイムラグが生ずる構造。
 - この結果、実技指導等は、10月から本格稼働となったが、その後は概ね順調に実績が伸び、25年度計で48,087人日と、年度年間目標(51,120人日)に肉薄したものの、一步及ばず。
 - 派遣先の内訳として学校に偏り、これに親和性のある職種に実績が集中している実態。
 - 对企业を含め、地域ごとの派遣ニーズの明確化・個別開拓を進め、マスターとのマッチングを軌道に乗せることがまずもって重要。
-
- マスターの実技指導等の実施は、マスター認定を進め、蓄積が図られた上で、さらに制度の広報、派遣ニーズの把握、マッチング等のプロセスを経て実現する仕組み。このため、認定に対し一定のタイムラグが生じ、さらに、予算成立の遅れも相まって、10月から本格展開。同月以降は、毎月6~9千人日の安定的な指導実績。年度計で48,087人日(本年度年間目標51,120人日)。
 - 内訳は、企業等への実技指導が6,435人日と、高校以上の学校21,661人日、小中学校等へのものづくり体験教室等15,269人日に比べ少数に止まる(ただし件数で見ると差はより近接)。全体として、派遣ニーズが顕在化しやすく、関係者間の連携が形成されると、既存のプログラムで対応しやすい等の特徴を備えた学校等への派遣にまずは注力する傾向。企業等との関係では派遣に向けた調整段階にある地域が多数。
 - これを分野別で見ると、①金属加工関係(12,558人日)、②建設関係(9,732人日)、③電気・精密機械器具関係(2,284人日)、④食料品関係(2,152人日)等、製造・建設の基幹産業である2分野に実績が集中。
 - さらに、職種別で細かく内訳を見ると、①機械加工(9,134人日)、②建築大工(6,778人日)、③菓子製造(4,602人日)、④機械検査(3,851人日)等、認定状

況以上に学校の派遣ニーズの高い特定職種に集中し、これ以外の多くの職種では少数の派遣実績に止まっている現状。

*本データは同一のマイスターが複数の職種で認定されている場合はこれら認定職種間で重複し計上。また、本データは実技指導の他、ものづくり体験教室等の実績が含まれているもの。

- また、地域別に見ると、上位は、①埼玉（3,000人日）、②広島（2,250人日）、③徳島（2,148人日）、④東京（2,074人日）、⑤京都（1,975人日）、⑥佐賀（1,885人日）、⑦愛知（1,850人日）と、いわゆるものづくり集積都道府県を中心としつつ、西日本の一部の県が健闘している実態。第4四半期で都道府県間の格差は縮小したが、上記の認定実績以外にも様々な要因で、バラツキが残っている状況。
- 今後、さらに個々の指導事例の内容、評価等を十分検証する必要があるが、まずは、地域ごとに連携会議等のチームを活用し、派遣ニーズの明確化、具体の開拓を精力的に進め、マイスターとのマッチングを行うことで、「事業の両輪」の足並みを揃え、軌道に乗せること、特定のセクター、特定の職種に偏ることなく、「実需」を踏まえた、バランスの取れた派遣計画の立案や、その推進のための効果的なプログラム^①の整備が重要。

3 利用者の満足度で見た成果について

○マイスターの実技指導を利用した企業等、訓練生の満足度は、ともに97%（目標は80%以上）前後と、ともに高い利用者評価。

- 上記1, 2のような、事業運営上の課題を抱える中で、マイスターの実技指導の利用者の満足度としては、企業・業界団体・訓練機関では97.6%、訓練生では96.7%と、ほぼ全員がポジティブな評価をしており、本事業に対する関係者の強い期待が表れているところ。

↓

- ◎ 以上の定量的な事業実績把握・分析に加え、実技指導等の具体の事例、指導対象、マイスター自身、その他関係者の評価等もさらに掘り下げ、関係者に広く発信するとともに、本年度以降の事業運営の重点の明確化、運用の見直し等に反映する必要。